

平成 25 年度

第 58 回 長野県中学校連合教科研究会

総合的な学習の時間

I	研究テーマ	1
II	趣 旨	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名	1～2
IV	研究問題と協議内容	2～5
V	本年度研究会の反省と来年度の方向	5～6
VI	あとがき	6

I 研究テーマ

地域や学校の特色を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発

II 趣旨

各学校や地域の特色を生かしながら、総合的な学習の時間が行われている。しかし、どのような活動をしていくかということに目を奪われがちになってしまい、育てたい生徒の姿やその姿をもとにした「つける力」を決めだしていくことについて、おろそかになってはいないだろうか。その単元（題材）や一時間の授業を構想するだけでなく、ロングスパンでの生徒の育ちを我々教師は見ていく必要があるのではないだろうか。そのために、教師はどのような支援をしていったらよいか。また、生徒が示す行為やその行為の背景にある思いをどのように読み解き、評価していったらよいか。このようなことを考えていくことで、生徒一人ひとりの学びの姿が見えてくると考える。また、学習指導要領に書かれている「探究的な学習」や「問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成」、「自己の生き方を考える」という視点をもちながら、研究や実践を深めるようにしたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

第1分科会

指導者	伊賀 雅志 先生 (北信教育事務所指導主事)	
司会者	阿部 考彰 先生 (麻績村筑北村学校組合立筑北中学校)	
記録者	山崎 晶子 先生 (中野市立中野平中学校)	
世話係	山岸 和広 先生 (附属長野中学校)	
学校名	研究の要旨	
両小野中	「たのめの里元気プロジェクト2013～たのめの宝でこの里を活性化させよう！～」をテーマに、地域の魅力的な素材を活用して、地域社会に発信する活動を行った。また、アントレプレナー（起業家）学習を取り入れた。1年～3年の縦割りグループで、〇〇開発部を企画し、プレゼンテーションを行うことを通して、協同的・創造的な活動を実現し、より良いプレゼンテーションの方法を模索する力や表現する力を向上させることができた。	小松 優子
筑北中	(レポートなし)	阿部 考彰
中野平中	(レポートなし)	山崎 晶子
篠ノ井西中	平和を願う人々の思いを追究することを通して、身近な人間関係で大切にすべきことを考えていくための手立てのあり方。	井沢 誠
附属長野中	過去の学びから、「ストーリーシート」に追究の方向性や問いを書き出し、それを基に3日間の体験学習に取り組んだ生徒たち。その後、「自分探しストーリー」を作成することで、仮の問いの答えを決め出すことができた。さらに2～4人のグループで発表し合うことを通して、体験学習が仮の問いの答えを導き出す理由となっているかを確認、再検討し、問いの答えをまとめ直すことができた。	山岸 和広
山形小	(レポートなし)	小山 大貴

第2分科会

指導者	野村 修治 先生 (中信教育事務所指導主事)	
司会者	檀原美江子 先生 (長野市立犀陵中学校)	
記録者	鎌倉 昌子 先生 (木曾町立日義中学校)	
世話係	大原 央之 先生 (附属松本中学校)	
学校名	研究の要旨	
中込中	佐久を知るための4つの講座から興味を持ったテーマを選択し、出前講座や地域講師を招いた学習会で学びを深めてきた生徒達。活動していく中で次第に自ら課題を意欲的に見つけ、学習を進めていく姿に出会うことができた。また学びを発表し合い共有することで新たな発見をしていくことができた。	柄澤 幸恵
日義中	(レポートなし)	鎌倉 昌子
三郷中	食と健康についていろいろな面から知識をみんなで共有してきた生徒達。そこから興味関心を持ったことについて個別テーマを据えて追究し、その内容を家庭や地域に発信する場をつくることで、自分自身の生活を振り返り、食の在り方や生活にも目を向けていくことができた。	正谷 晴邦
南宮中	勤労観に焦点を当て、「なんのために働くのか」について自分なりの考えを持って職場見学を行った生徒達。実際に働いている人に、「働くことの意義」について質問したり話を聞いたりすることで、「働くこと」について考えを深め、日々の生活を見直し自己の生き方を考えていくことができた。	宮沢 和紀
犀陵中	犀陵学区の特色を知るために地域の人たちへ聞き取り調査を行い、地域の課題として多くの住民が交通の危険を指摘していることに気づいた生徒達。特に危険な場所を特定し、改善、整備を市へ要望する資料作りをしていく中で、区長さんのお話を聞いたり、学級内で検討し合ったりすることにより、さらに課題を持ち、追究を深めていくことができた。	檀原美江子
附属松本中	松本の街で脈々と受け継がれている文化や伝統、そこに携わる人々の思いや願いに実際に触れることによって心が動かされ「松本の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」と主体的に動き出した生徒達。2年時へと活動は継続し、さらなる「もの」や「ひと」との出会い、学級内での話し合いを通して、自己の「問い」は深まっていき、同時に、学級での共通の思いも再確認できた。	大原 央之

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会記録】

- 1 討議題 地域の自治体や企業との連携のあり方や方向性について
塩尻市辰野町中学校組合両小野中学校

【質疑・討議】

- ・アントレプレナー学習について。
- ・グループによる学習の深まりの差をどうしていくか。
- ・学びの成果を発信するための方法。
- ・職員の関わり。全職員が分担を決めて地域の方とのコーディネートに取り組むことの良さ。
- ・縦割りグループで追究することの良さや課題について。どう継続、発展させていくのか。

【指導者の先生のご指導】

- 地域に密着した取り組みである。小学校で地域の方との関係性を築いて土台をしっかりと固めているからこそ、中学校での総合の時間に生きてくる。小学校との連携の重要性。
- 縦割りでの活動におけるメリットは、生徒同士の学び合いや教え合いなどが引き継がれることである。全職員で対応できる良さもある。
- 個の取り組みやエピソードを大切にしていける。行って見て振り返り。やってみて振り返り。探究の繰り返しが学びを深めていく。

2 討議題 問いの答えがより自分の生き方につながるものにするための意見交換のあり方
信州大学教育学部附属長野中学校

【質疑・討議】

- ・ 3年間の見通しを持ったカリキュラムの組み方について。
- ・ 問いの定義とは何か。
- ・ 体験学習に行く前に問いを持つことで、学びが深まる。ねらいを定めて体験に行くことが大切。
- ・ 友との関わりによる変容。友の問いかけが、自分の活動を振り返ることにつながる。活動を通して何を学んだのかということ振り返る場があることが重要。

【指導者の先生のご指導】

- 子どもたちから課題が生まれるように、課題を設定する上で教師が手立てをとることが必要である。
- 課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という探究のサイクルの中で一番大切な部分は、整理・分析である。整理・分析とは、情報の再構成であり、考えることである。他者と共同して取り組む学習活動にすることで、互いの考えがより深まっていく。
- 体験学習でもっとも大事なことは、事前学習と事後学習である。子どもの変容を捉えたい。体験で得た実感と言葉（思考力・表現力）とを結びつけることで、対象との関わりが深まる。必要に応じて、再度調べ学習を行う展開があっても良い。自分の生き方を考え、自分の生き方に立ち戻れるようにしていく。

3 討議題 平和を願う人々の思いを追究することを通して、身近な人間関係で大切にすべきことを考えていくための手立てのあり方。

長野市立篠ノ井西中学校

【質疑・討議】

- ・ 「人の思い」を追究の軸に据えて構想した追究サイクルについて。
- ・ 各校における総合的な学習の時間のカリキュラムについて。
- ・ 教師が地域の文化を理解しようという姿を生徒に見せることが大切である。
- ・ 総合の時間と他教科との関連。
- ・ 深く思考するためには、豊かな言語活動が必要。

【指導者の先生のご指導】

- 総合的な学習の時間と教科の学習は、補完し合う。総合において探究の4つのプロセスを丁寧に行うことが、学力に反映してくる。
- 既成カリキュラムをただなぞるだけにならないように、子どもの思いや願いを中心に据えた単元展開をしていく。常に見直しながら、カリキュラムを修正して展開していくことが必要。
- 総合の評価は、1時間単位で必ず行なうということではなく、一人ひとりの成長の様子を長い時間をかけて評価していくものである。
- 教師がその子の良さを認め共有することで、次への意欲につながる。子どもが主役だが、その鍵は教師が握っている。

(文責者 中野市立中野平中学校 山崎 晶子)

【第2分科会記録】

- 1 討議題 勤労観に焦点を当てて題材展開したが、学習の進め方、テーマ持たせ方についてどうしていったらよいか。

中野市立南宮中学校

【質疑・討議】

- ・職場ごとに質問したいことをまとめたことで、自分の思いを十分に聞くことができたかどうか。
- ・自分の問いと、それに対する仮説があつての職場へのインタビューとなるとよいのではないか。
- ・中学1年生の時期に勤労観を扱うことの有効性

【指導者の先生のご指導】

- 勤労観をもつこと、進路を見据えて夢を抱くこと、自尊感情を養うことが大切。キャリア教育との結びつきを大事にすることが重要である。
- 1年生で職場見学、2年生で職場体験と系統立てて計画している良さを生かし、1年生でもった問いを2年生で改めて問い返すとよい。1年生と2年生で勤労観に対しての変容が見えてくる。
- 問いをつなぎ、体験することで、違う自分と出会えたり、価値観を抱いたりする学習となっていく。

- 2 討議題 長期間で学習を設定した時の生徒の意欲が途切れないようにするための手立てと評価や講座開設の望ましいあり方

佐久市立中込中学校

【質疑・討議】

- ・市から依頼を受けた材で学習を進めているが、どのように子どもたちへおろしたか。
- ・中学生が地域の依頼に応える、地域に出ていき、地域の人と関わることの大切さ。
- ・地域を知る、その地域の中でどう生きていくかにつながっていく発展性のある題材。
- ・他教科とのつながりの中で学習を仕組むと更によいのではないか。

【指導者の先生のご指導】

- 自ら課題をもち、自ら問題を解決する動きを取り入れることの重要性
- ひと、もの、体験活動を通して、生徒から問いを生む（長野県の総合で大事にしていること）
- 教師が活動内容を示した後、生徒がやる気や期待感をもてる学習展開を構想することが大切である。
- 教師が、特別活動と総合的な学習の相違点や関連を捉えておくことの必要性

- 3 討議題 一人一人の問いに対し、どのように個人やグループでの追究の接点を探り、学級として繋がりを持たせたらよいか。

信州大学附属松本中学校

【質疑・討議】

- ・3年生まで続く学習として、3年生の最後の子どもたちの学び、教師の願い
- ・生徒に任せて学習を進める部分について
- ・地域の人たちとの関わりの中で深まる子どもたちの追究について

【指導者の先生のご指導】

- 自らの問いが自分ごとになっていく場面を大事にすることが大切である。
どこかに提案、発信していくことが生徒のやりがいにつながっている。
- 生徒に任せるという点について
今学習していることの状況整理から生徒に判断を任せてみたり、活動に入る前に「本当にこれでよいか」問い、じっくり考えさせたりすることが必要である。

- 4 討議題 生徒が課題を更新しながら追究を深めていく学習のあり方と個やグループでの活動を学級全体につなげていくための手立て

長野市立犀陵中学校

【質疑・討議】

- ・今後どのように進め方、活動のゴールについて
- ・自分の住む地域の課題に目を向けた学習の良さ
- ・行政との関わることについて、中学生が社会とつながることの有効性

【指導者の先生のご指導】

- 単元の終末で、何かを達成できない展開もあり得る。目標と生徒の実態に照らし合わせて考えていくことを大切にしたい。その経験が今後の人生に役立っていくことが大事。
- 教師が構想力をもって授業を作っていくことの重要性
生徒自身に考えさせる場面の見極め、教師の出やタイミングで、学びの質が決まってくる。
教材研究を深めておくと支援がしやすくなり、思考判断を導く教師の言葉がけにもつながる。

- 5 討議題 生徒が課題をもち主体的に取り組むための手立てや伝えたいと思うような単元展開
安曇野市立三郷中学校

【質疑・討議】

- ・食育学習との関わりについて
- ・最後の評価、生徒の終末における学びの姿
- ・他教科の授業との連携の大切さ
- ・生きることにつながる「食」を題材にする良さ

【指導者の先生のご指導】

- 知識・技能を入れて探究へ入るスタイルは他県に多い。他県から学ぶこともできる。
- 学校教育における食育の面から考える総合（他教科との連携）

(文責者 木曾町立日義中学校 鎌倉 昌子)

V 本年度の反省と来年度の方向

1 本年度の反省

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	○よい。時数削減から、カリキュラム開発は必要 ○生徒の問いや願いを大切にしたい追究を展開していくために「地域」というキーワードは大切である。
○研究の主な内容と研究の成果について	○各校において全県テーマを踏まえた上でのテーマを設定して取り組まれているようでよかった。→今年度の方向で継続
○研究の方法や経過について	○適切である。→今年度の方向で継続
○研究会当日の運営について	(特に意見なし)
○研究集録等の Web ページ掲載について	●司会計画がアップされていなかった。一般参会者にも司会計画が分かった上で参加できるようにしたい。

○本年度運営全般について	(特に意見なし)
--------------	----------

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	「地域や学校の特色を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発」
○来年度の研究の趣旨	その単元（題材）や一時間の授業を構想するだけでなく、ロングスパンでの生徒の育ちを我々教師は見ていく必要があるのではないかと。そのために、教師はどのような支援をしていったらよいか。また、生徒が示す行為やその行為の背景にある思いをどのように読み解き、評価していったらよいか。このようなことを考えていくことで、生徒一人一人の学びの姿が見えてくると考える。来年度は、生徒自ら課題を設定していく学習にも焦点をあて、テーマの内容に含めていき、「探究的な学習」や「問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成」、「自己の生き方を考える」という視点をもちながら、研究や実践を深めるようにしたい
○来年度の研究の方法	○生徒自らが課題を設定していくために、教師がどのような手立てを講じたらよいか考えていく。 ○三年間を通した学びのデザインを追究していく。
○その他、改善したい点	○レポートを持ち寄って発表するやり方はとてもよいので、討議してほしい内容を中心に、もっと時間を割いていきたい。 ○総合については、レポートなしでも参加できることやレポートの形式を簡素化できることをアピールして、多くの先生方に参加してもらおうとよい。 ○「総合」への参加学校数が増えるとありがたい。

VI あとがき

進路指導や個別懇談を控えた11月22日、学期末の忙しい時期ではありましたが、県下各地から、総合的な学習の時間を生徒主体の時間にされようと実践を重ねられている意欲あふれる先生方にお集まりいただきましたことに感謝申し上げます。当日の会も司会の先生方のご尽力と、参会者の先生方のおかげで、終日、熱い意見交換がなされました。実り多い一日となったのも、先生方の実践の確かさをおいて他にありません。本当にありがとうございました。

そして、指導者の伊賀雅志先生、野村修治先生より、すべてのレポートに対して、温かく、的確なご指導をいただきましたこと。司会者の阿部考彰先生、檀原美江子先生には、綿密な進行計画を立てていただき、研究協議の場がより深まったことに厚く感謝申し上げます。また、記録者の山崎晶子先生、鎌倉昌子先生には、記録を取りながらも、熱心に審議にも参加いただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

来年度も県下各地の先生方の熱い思いや、生徒とともに歩み、創りあげた実践に出会えることが今から待ち遠しい思いです。参会の先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼といたします。ありがとうございました。

委員長 山岸 和広
副委員長 大原 央之